

事例 NO.18		
事業の種類	河川等	
環境配慮の概要	多自然型河川（巣穴ブロック，寄せ石等の設置）	
事業名	一級河川江の川水系長瀬川 統合河川整備事業	
事業主体	広島県（担当機関：芸北地域事務所建設局吉田支局工務課）	
実施場所	広島県高田郡高宮町川根 長瀬川	
実施期間	平成10年度～平成18年度	
事業概要	全体事業費	1,363百万円
	施工区間等	長瀬川（高宮町川根地区），施工延長274m
	事業の目的・経緯等	自然環境の豊かな長瀬川には，事前調査で，希少種や絶滅危惧種の生息が確認された。魚類ではスナヤツメやアカザ，植物ではヤシャゼンマイ，その他にオオサンショウウオ等が生息していた。これらの生物の生育・生息環境の保全を目標とし，工法の選定を行うとともに，早期の復元が可能となる工法とした。
環境配慮の内容	<p>工法等</p> <p>（1）親水性の高い護岸構造とし，断面的に余裕のある箇所では水裏部に高水敷（大雨等による高水時のみ水が流れる部分。河川敷緑地等）の整備を行った。</p> <p>（2）多孔質構造の連節ブロックを施工し覆土することにより，改修後の在来植物の早期復元を図った。</p> <p>（3）オオサンショウウオのすみかとなっていた淵の保全を行うとともに，巣穴ブロックの設置や魚類の生息に配慮した寄せ石等の施工により，空隙のある変化に富んだ水辺の創造を行った。</p>	
施工後の状況	<p>効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緩勾配護岸や階段式護岸の施工により親水性が高まり，高水敷も多くの人に利用されている。 ・護岸上部の法面部では，在来植物の復元が見られる。 ・工事起点側の保全した淵は工事の影響により浅くなったが，工事完了後，自然の力により新たな早瀬が生じてきており，瀬の流速上昇により淵が深くなりつつある。また，湾曲部の水裏側では，土砂の堆積が始まり零筋が狭まりつつあり，瀬や淵を形成してきている。 	
留意点等		

(図面, 写真, 説明)

改修前の横断面図



【改修前の断面図】

護岸はコンクリートブロック積工であり、動植物の生息環境的には、あまり適していない。

改修後の横断面図



【改修後の断面図】

巣穴ブロックを設けたり、魚類の生息に配慮した寄せ石等を施工することにより、空隙のある変化に富んだ水辺の創造を行った。

寄せ石



【改修後の状況】

護岸上部の法面部では、在来植物の復元が見られる。



【改修後の状況】

多孔質護岸からは、植物の復元が見られる。自然の力により新たな早瀬が生じつつあり、瀬の流速上昇により淵が深くなりつつある。